

俄語文庫

六十八

凡箱集

子 3

3549





風動く可成海つゝあふ海にぬ
 世を何と事とあふ弟をあらたに
 多ふとやひふたをいふ能くは
 言ふ松のうゑりも海にともこも
 めいふ節のうゑ花乃林り分家心
 しつ何の事おむうたをいふ法
 めおらんをまを様あよふりて世
 く人あひんをまを様あよふりて世

73
 35
 3549



元利
 1139

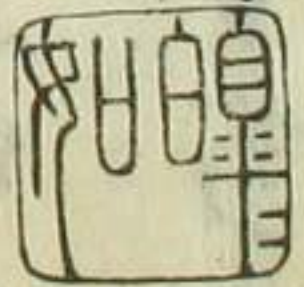
無敵高のありしつゝもみり程も
世の人おぼゆるも然しつゝ我も又
あゝあも然しあや先摺書一冊
ありてあるもさういふあり
少くも形も松たけありも様あり
と流すはいつくも花もさるも舞いあ
しゝとあかぬもせむ丹蘭園の
むるもあやもあや

生風

大須賀氏。舊為蒲生侯。臣。及侯國除。
乃隱于吾鄙。為高賈。子孫今有九家。咸
以財雄于閭里。獨皎高環堵蕭然。若
南阮之於北阮。然置々自得。唯日事丹青。
又喜著述。昔者孔子以齋景千駟。為不
如首陽之餓。然則古君子所取。果在此而
不在彼也。皎齋已味前編。又有此編。以

余高年而舊志。來請題言。余以拙
于文詞拒之。不聽。遂援筆於眠。云窩中云
嘉至壬子修禱後一日

六十五翁穆高識



月湖中常法師書



月湖中常法師書
嘉至壬子修禱後一日
余高年而舊志。來請題言。余以拙
于文詞拒之。不聽。遂援筆於眠。云窩中云

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, arranged in a single column on the right page.

東のよそ乃ほまらけくは信をたぬの
やまともありのみはまらけくは信を
あひの道いやまらけくは信を
持ひてまみるる人あまらけく
なまらけくは信をたぬの
丹まらけくは信をたぬの
何れも乃らまらけくは信をたぬの
詩歌書畫をたぬの

光をまめをこころの筆の記を甲一宮ふん
人々も母を後方の代も孫をわらふて
あまらう一巻を板よ志ら板一〇程のと
まらも多し水をはりしふよの勢い
らう光も二篇を著し一巻は瑞雲を
とほする。歸つてあまの志らうり路あま
相津人々の志らぬ人々あまの志ら
ていどあまらうりく歸らふま月ま

一時しきこころの目さしのおもひを
あまあのおもひしきこころのあまの
あまの志らふあまの志らふしきあま
おまの志らふあまの志らふしきあま
つしきあまの志らふあまの志らふし
あまの志らふあまの志らふし

嘉永五年四月

標彦功垂

Faint, illegible cursive handwriting in a rectangular frame.

名成一号汪齋

角田半輔

名成一号汪齋
汪齋
汪齋
汪齋
汪齋

名茂美号紅葉齋

奥山太治右衛門



盤里

号須賀舍

役五位下 諏方実祝阿波守神宣麻呂

月乃懸て扇合ふ末廣のあつたは
 きー此坊ゆてしうりやうの原こ
 りれうおまきれきんを結つてこの原を
 ちまやれれはうけつておまきいほを
 たまへくは無邪小の勢で柳を
 けりてこもりておまきもり

宣麻呂

予備乃とあはれははく文を
 まいもれれれ新うまはく

名真義号香醉

新美民弥



名甫水号二橋菴

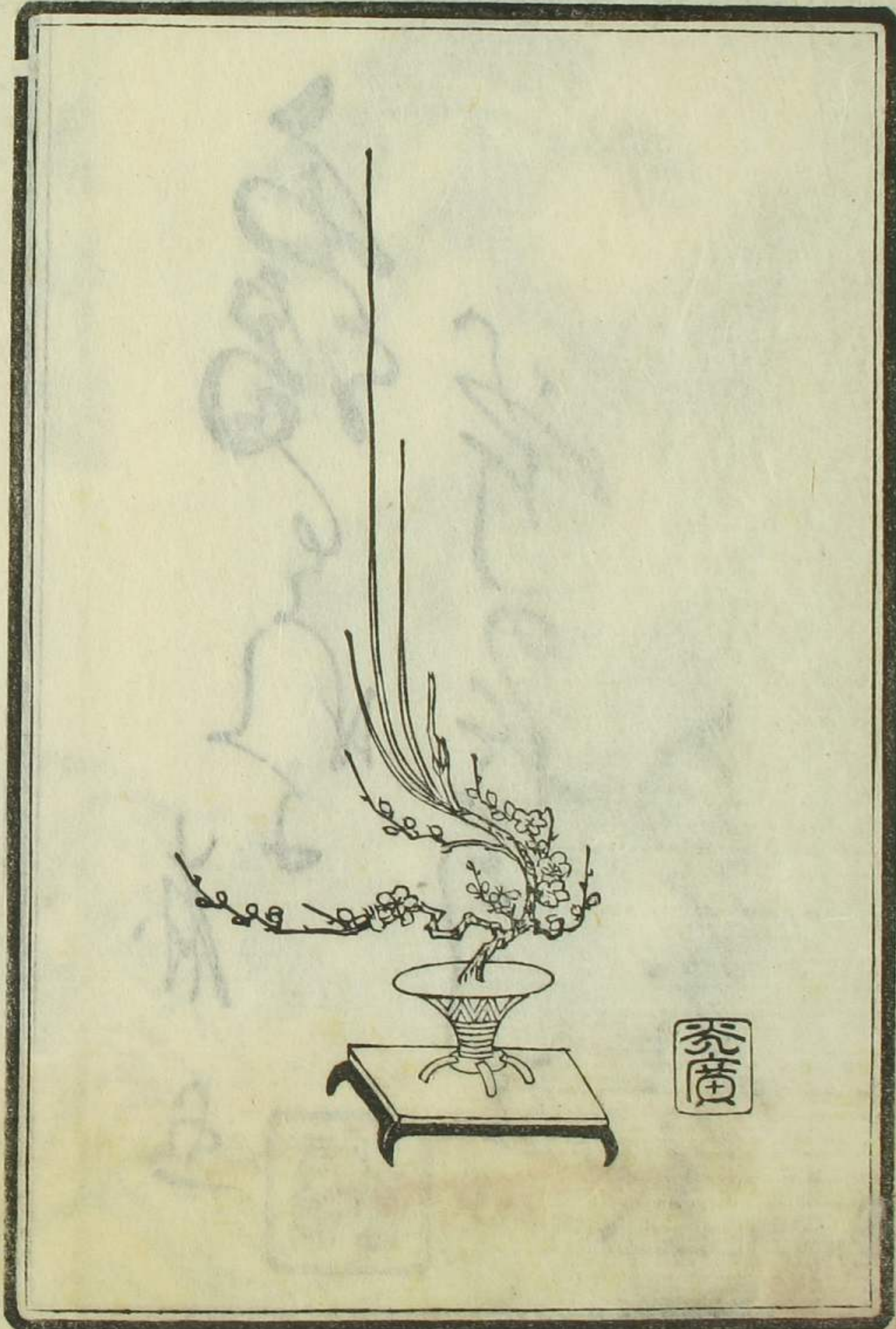
塩川驛
穂山八百蔵

石橋
香の
海
三橋
菴



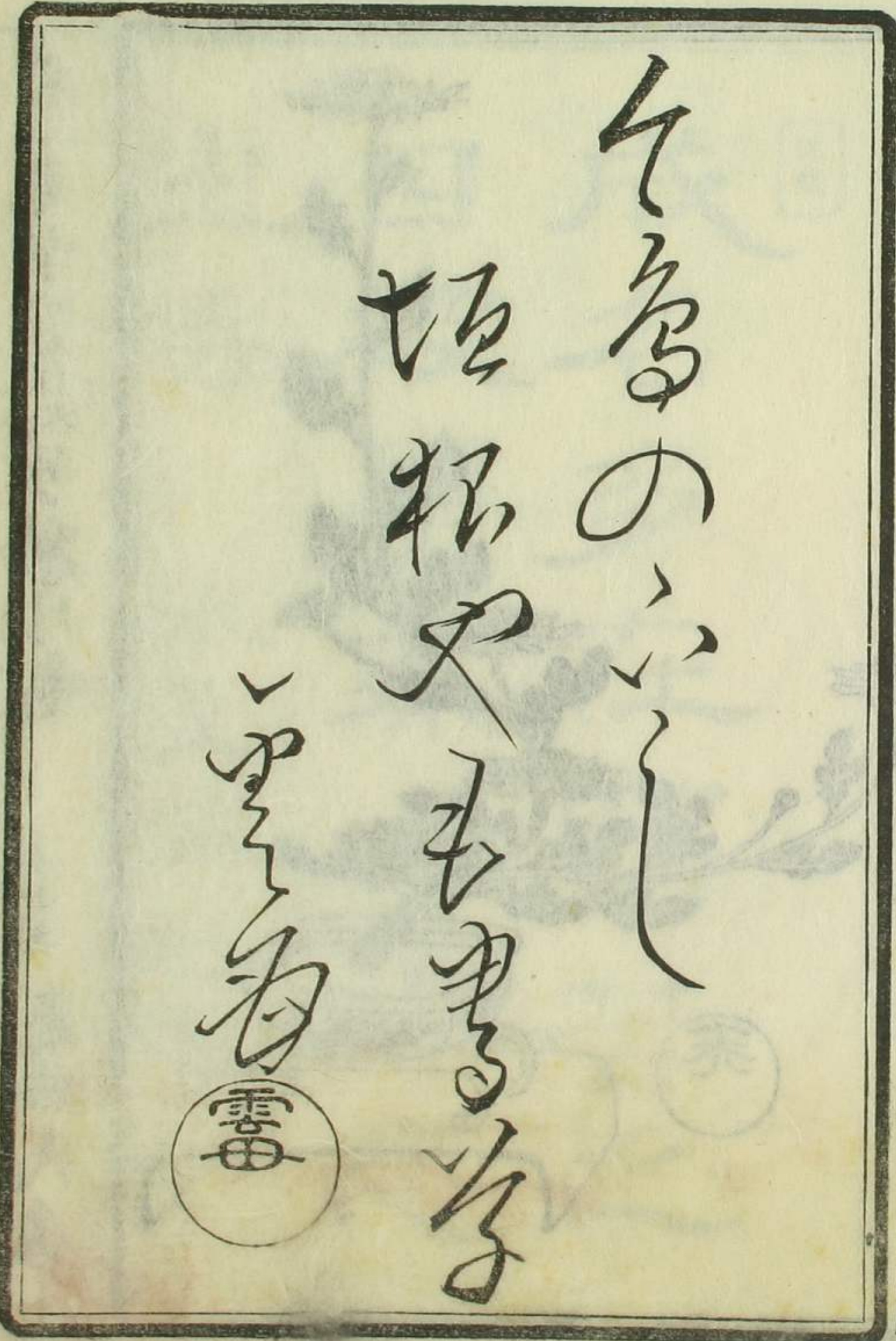
名一香字光廣号梅窓庵

塩川驛 一重和吉



名雲母号螢雪庵

金川村 金川寺



名一光字芳是号窓月庵

塩川驛

角田民蔵



名至海字盈之

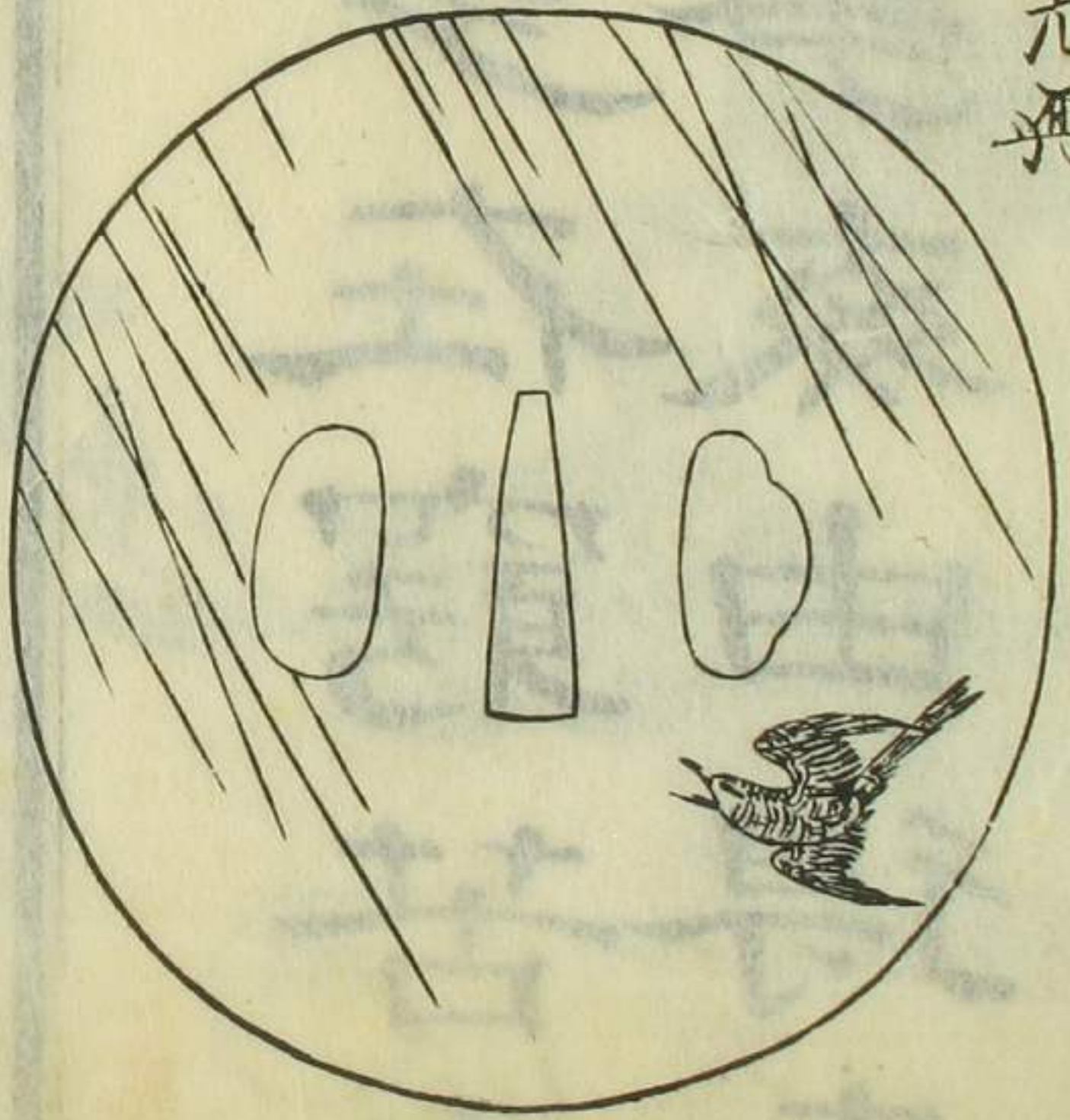
藤田深蔵

成成名多多在在窮窮苦苦之之
 曰曰破破事事效效由由得得志志
 出出時時
 水水至至海海幽幽極極

名正光号愛壽

林英三郎

正光



分

新田新藏

大須賀松太郎

名康光号東潮

十二童

大須賀松太郎

大須賀松太郎



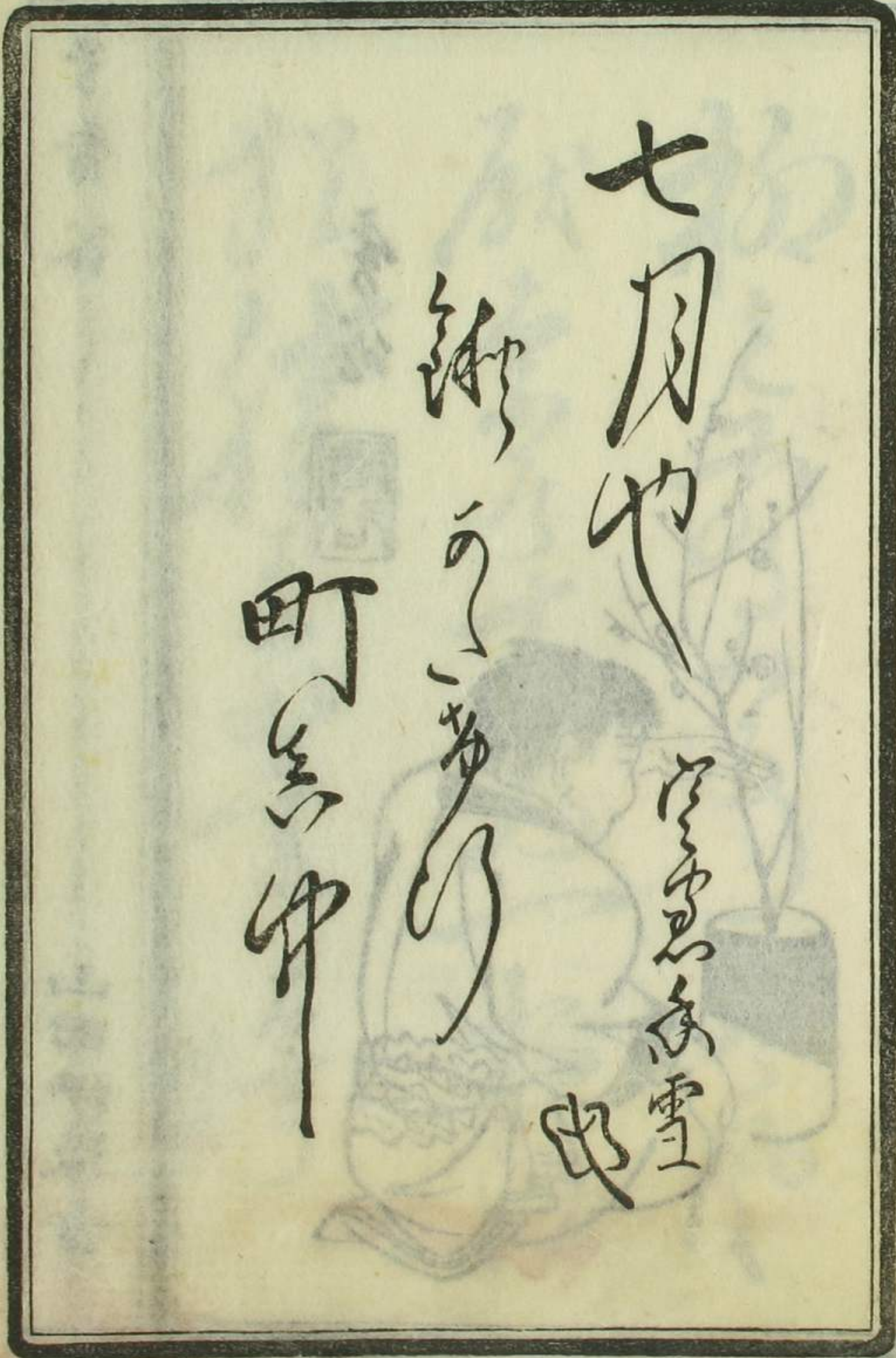
名清字士潔号適圃又竹溪

佐藤勝之助



号香雪

星野文助



号香谷

山田伊豫吉

香谷



名始光号石亭

石川島之助

石亭

物之香乃多乃香風
成高乃乃乃一松法
於後乃乃乃乃乃乃

香谷

名利兼

菅友藏



名為邦字百年号東山

士童 佐治次太郎

春

春日花如錦尋香

嬌鳥來園林殘照裏

乘興且銜杯

春日見花 佐東山草



名子行
号観山
任法橋

佐藤観山



鶯歌風雅集二篇ありぬと
うたふるものあはれい集れは
うたふとあはれい集れといふ
まゝのうたふとあはれい集る
そのまゝのうたふとあはれい
まゝのうたふとあはれい集る
まゝのうたふとあはれい集る
まゝのうたふとあはれい集る

心無くしてはなれし書もかきよの
筆の如く筆をそけくすの道
く形も意も交符もく鬼神
をもあつらんみ次くくはる
の阿も我もあめり又能事との
白はともも我もあめり
くくあれあめりくくあ
とくあめりくくあめり

相撲の場にくくあめり人の
るあめりくくあめり人の
くくあめりくくあめり
くくあめりくくあめり
くくあめりくくあめり
くくあめりくくあめり
くくあめりくくあめり
くくあめりくくあめり
くくあめりくくあめり

山に雲かゝりて物もなほ
人跡も無山人の海

秋の山景

山に雲かゝりて物もなほ
人跡も無山人の海

